

## ○意見交換会での意見

(保育基本方針について)

- ・質の高い保育サービスとはどのようなものを指しているのか（表現が曖昧）
- ・老人と子どもの混合の施設があってもいいのでは。
- ・公立保育園5園は、いつなくなるのか。
- ・公共サービスが全面に出ているが、サービスとは何か。
- ・保育・子育ては、与え続けるだけではなく、相互に支えるという視点が必要。
- ・待機児童ゼロを目指すとはあるが、入れる園はあるが、場所や条件等自分の希望する園に入園できないことがある。
- ・方針中に「地域」という言葉がたくさん出てくるが、「地域」という言葉の定義を明確にするべき。
- ・「足」に「靴」を合わせるという考えでいけば、基本方針4が初めに来るとよい。
- ・公立保育園を無くすことが目的か。本日の主旨がわからない。
- ・5つの基本方針はとても良い内容だが、人材面・財政面では厳しい。都会のようにはいかない。
- ・まちづくりの中で、保育は大切と言っても子育ての出発のところをしっかりと話し合うことが大切。
- ・公立保育園としての役割は何か。
- ・5つの基本方針は誰がやるのか。人材不足。
- ・(保育所の)入園については東京都とは状況が違う。
- ・市として公立保育園が何を目指しているのかははっきりしていれば、私立保育園との役割が分けられるのではないか。
- ・市の情報が少ない。地域性、人口、貧困など実情が基本方針にあれば、意見交換しやすかった。

(保育サービスについて)

- ・子育てサークルに1歳未満で参加する例もある。1月半くらいで参加される場合もあり、創作活動などはできない状況。
- ・昔と子育て環境が違う。サークルが保護者のストレス解消になればよい。
- ・0歳から、サークルや保育園に行かなければならないと保護者は思い込んでいる。
- ・家で母子2人で過ごす時間も大切だと伝えている。家庭で保育することの大切さをもっとキャンペーンすべき。
- ・乳幼児がサークルや一時預かりを利用すると、感染症に罹るリスクがある。預ける必要がないのに預けて感染症に罹っている。
- ・近所に「大変だ」と言える場所があればいい。
- ・学童保育は就労や病気等の理由がないと利用できないが、対象を広げてみては。
- ・保護者の子育て能力が低くなったので、地域で育てることは大事。
- ・わざわざ行政に相談に行くほどではないが、サークルなどで話ができると気が楽になる。
- ・親の介護でサークルに行けない場合もある。たまに行くと輪に入りにくいことも。
- ・働いていると土・日しか休みがない。サークルなどに行く時間もない。

- ・土日に子育てに関する支援をして欲しい。
- ・保育園で大切に育てられても、学童保育での受け入れ態勢が不十分。今後の方針の中で学童保育のことも含めて考えてほしい。

#### (多世代交流について)

- ・自治会のアンケートで、高齢者も若者や子どもと接したいという意見があった。
- ・地域の中で交流したいという思いがある。そのきっかけをどこが作っていくか。
- ・高齢者の施設訪問では、大人が行くのと子どもが行くのとでは高齢者の表情が違う。
- ・子どもとの触れ合いは、高齢者には大切。

#### (地域の子育て支援について)

- ・防災面からも、地域の力を高めるために子どもや高齢者との交流が必要。
- ・原因は保護者が役員になりたくないという理由で、子ども会の活動が廃れている。
- ・子育てを地域でできるとよい。親だけに押し付けない。
- ・地域のお手伝いは集まっても、児童の保護者が集まらない。役員も同じメンバーに固定。
- ・家庭教育がベース。それができた上での地域での子育てではないか。

#### (幼・保・小の連携等について)

- ・中学生が幼稚園のクラスに入って体験学習をしたり、年長児が小学1・2年生と交流するというのはとてもよい試みだと思う。
- ・地域で使用できるスペースを幼稚園に作ることも考えていきたいが、子どもの事故予防という視点等も入れて考えなくてはいけない。

#### (その他)

- ・若い保護者には余裕がない。保護者に余裕ができればよい子育てができる。
- ・自分の子どもは託児所や、その他いろいろなサービスを利用して育ててきた。地域で育ててもらったと思っている。
- ・未就園児の場合は、下関市のふくふく館のような屋内で安全に遊べる場が大切。
- ・小さい子と行く場所がない。公園など外は暑い。親と子だけで同じことの繰り返しになる。
- ・子育て中の保護者にもっと聞いてもらいたかった。情報が行きとどいていないのではないか。
- ・昔の保育園は、働かないと生活していけない人が利用していたが、現在はそうではない。(保育園に入れるために働く保護者もいるので、) わざわざ保育園に入らなくてもよいようなサービスがあればよい。
- ・子育て中の保護者は、どうにかして社会に関わりたいと思っている。家庭にいても社会に関われる仕組みがあればよい。
- ・子ども食堂について、知らなかった。

## ○意見交換会講師講評

### ・「ストレスが貯まる」ということについて

個々にどのようなストレスが貯まるかという検証が必要。個々によって貯まるストレスは違う。「ストレスが貯まる」という一般論ではなく、どういうストレスが貯まるかという検証が必要。よく「親は」というが、「親」とは誰か。どの親かということがないがしろになると、抽象化してしまい、具体的な解決策が見出せない。Aさんがどうか、Bさんがどうか、Cさんがどうかということを積み重ねて、明らかにすることが必要。

### ・親が出て行きやすい場所とは

乳母車を押している母親が雨の日に行きやすいところは、雨に濡れない立体駐車場のあるデパートなど。そこに情報を置けばいい。サロンをすればいい。どこに行きたいのか、行きやすいのか、そこに合わせて行けばいい。その人がどういう人なのか、どういう動きをしているのか、個別に議論していけば援助の仕組みが分かる。

### ・父親の準備はどうか。

母親の準備というが、父親の準備はどうなっているのかという課題は、永遠の課題であるところ。夫婦共同参画というのが、実態としてあるのかということが問われていて、女性だけの問題ではないということ、両親で育てるとということ、役割分担をきちんとしていかなければならない。

### ・「質のよい保育」とは何か

ひとつは、育ちを保証するという。その子が心身ともに健やかに育つということが前提。もうひとつは、個性が伸ばせるかどうか。個々の育ちを保育園はどう守れるか。三つ目は、子育て支援をしているか。親が悩んでいた、迷っていた時に保育園はちゃんと関わっているか。食育についても議論できているか、そういうことに関われるのが保育所の役割だと考えるので、質のよい保育とは多様なものと認識している。

### ・「地域にある保育園・小学校」について

ひとつは、小学校でいえば、行き帰りを地域の住民で見守るというように、児童の処遇を保育園・小学校だけで完結しない。

二番目は、保育園・小学校の機能を地域に開放する。

三番目は、運営に住民に加わってもらう。コミュニティスクールの原則。運営について、住民の意見を反映している。言った限り、住民も責任を取る。言いつ放しはあり得ない。それが協働の原則。

課題は保育園にあるのではない。地域にある「課題」が保育園に出てくる。その課題がなんであるかを共有していかなければならない。「何に今直面しているのか」ということを、地域全体で考えていかなければならない。

- ・「地域」の定義について

個別に理解すること。見守りなどは、近く。サロンでみんなが来るというなら、もう少し地域を広げる。事業や内容によって圏域が違う。

- ・「Wケア」について

Wケアの問題は深刻。どうするか組織として考えていくことが大切。

- ・「地域包括ケアシステム」について

高齢者だけではなくて、障害者と児童も含めた仕組みが、一億総活躍社会に組み込まれる。9月から検討があって、3月から始まる。モデル事業がさかんに行われている。地域包括はこの3つを合わせなければならない。家庭をみていかなければならないので、切れるわけがない。

すぐに3つを合わせられなくても、大事なことは、ワンストップサービスで相談できる仕組みを作っておく。そこに行けば、みんなで協力できるという仕組みを行政が持ち得るかどうかが真価の間われるところ。